

東京都公立小中学校における校庭芝生化の現状把握と課題検証に関する研究

A study about the stocktaking and the problem inspection of the school grounds lawn in public elementary and junior high schools in Tokyo

1K05B069

河 邑 陽 介

指導教員

主査 間野義之先生

副査 横山文人先生

1、背景

校庭芝生化は、教育上の効果や環境保全上の効果、地域のスポーツ活動の活性化など、様々な目的から急速に普及してきた。文部科学省は、1995 年度より校庭の芝生化を補助事業に取り上げ、この事業により、校庭の芝生化を行った学校は、2004 年度までで 297 校となり年々増加してきている。また、東京都では「緑の東京 10 年プロジェクト」として、ヒートアイランド対策など都市環境の改善をめざし、その一環で校庭芝生化の補助事業も行っている。しかし、全国の校庭芝生普及率(2005 年 5 月)を見ると、鹿児島県の 22.5%が最高で、次いで沖縄の 21.2%、秋田の 18.1%、東京都にいたっては 1.1%となっており、全国的に見ると芝生化が進んでいるとは言い難い結果となっている。

2、研究目的

東京都における公立小中学校の校庭芝生化の推進を目指し、東京都における校庭芝生化の現状を明らかにすることによって、今後の取り組むべき課題を検証することを目的とする。

3、研究方法

東京都内でも、特に学校教育に力を入れている杉並区を訪問し、その職員の方に杉並区の校庭芝生化の現状、課題、展望についてインタビュー調査を行い、その現状や問題点を明らかにし、東京都における校庭芝生化の発展に繋げる。

4、結果

現状として杉並区における校庭芝生化は、東京都公立小中学校運動場補助事業の全額補助を受けて年々増加する傾向にある。その中で、維持管理のための団体設立を絶対条件に芝生化を行うことによって一部職員の負担をなくしている。また、東京芝生応援団を設立することで、専門知識・技術不足や、養生期間中の校庭代替場所の問題を解消しようとしている。今後の課題は、「踏圧の問題」である。特に校庭の面積に対して児童数の多い小学校や、小学校に比べ体格が良くそれに伴い地面を踏む力が強い学生がいる中学校の芝生化は、今後の大きな課題となる。特にこの傾向は校庭面積の小さい東京都にしばしば見られる。現段階として、校庭以外の緑地化を進めることを検討している。この問題を解決するためには、今後の技術改良、やり方の工夫が必要となってくる。

5、考察

杉並区における校庭芝生化は、今後更に進んでいくと思われる。それは、何年後までにという規定はないが、杉並区内の小・中学校全校を芝生化しようという「方針」が存在するからである。また、芝生化を絶対に失敗させないという強い意志があり、仕事の負担に関しても、子供達の将来を考えると、負担ではなく自分たちがやるべきことであると考えているなど、「意識」の面で根本的に違う。教育という観点から、子供達が自然と触れ合うことができるということが一番のメリットと考えていることがそうさせたのであろう。また、杉並区は「東京都公立小中学校運動場補助事業」の支援を受

けて校庭芝生化を実施している。この事業によって、地域などと協働により維持管理の仕組みを構築するという条件はあるが、全額補助を受けることができている。また、少額ながら維持管理費としても、芝生化した翌年から3年間補助金を受ける制度ができるなど、東京都の支援は校庭芝生化に向けて大きなものとなっている。さらに、維持管理体制の構築を絶対条件として芝生化を行い、地域全体が芝生を守り、その芝生を守ることで協力することが、地域の活性化にも大きく貢献している。このように、杉並区は自治体の補助制度や芝生の管理団体があることによって、校庭芝生化を大きく前進することが可能となった。

6、結論

課題として挙げていた、維持管理体制の問題、財政面での問題、専門知識・技術不足の問題、校庭の代替場所の問題は杉並区としては解消している。問題は「踏圧」である。グラウンド面積に対して児童数が多い場合や、中学生のように体格の良い児童が多い場合、校庭の芝生化が困難になる。特にこの傾向は、校庭面積の狭い東京都においてしばしば見られる。現段階としては、校庭以外の緑地化を進めることを検討している。今後は技術改良、やり方の工夫が必要となってくるであろう。